



発行日：平成 29 年 9 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 41 回川部会WGを開催しました！

8 月 23 日（水）に第 41 回川部会WGが豊田市職員会館 会議室にて開催されました。今回の WG では、地先モデルで取り組んでいた川関係の市民活動団体に関する情報共有と山部会として連携して取り組む『流域再生担い手づくり事例集』について話し合いました。

日 時：平成 29 年 8 月 23 日（水）14:00～16:00
会議場所：豊田市職員会館 会議室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■川関係の活動団体リストの情報共有を行いました

- ・過去に作成された活動団体リストを参考に、各市の市民活動登録サイトや川部会員からの情報提供をもとに、最新の活動団体リストを更新しました。
- ・活動団体リストには、活動拠点、流域圏懇談会のメーリングリストの登録状況、山部会が取り組む山村再生担い手づくり事例集での取材実績、川部会の地先モデルとしての訪問実績に関する情報について追記したほか、備考欄に活動状況に関する諸情報を記載しています。
- ・リストを充実化するためには、川関係の団体だけでなく、農業や環境、森林など幅広い分野を対象とすることや、矢作川流域にこだわるものではなく、矢作川の恩恵を受ける“流域圏”や他流域を対象にしてもよいなど、様々な意見がでました。

■流域再生担い手づくり事例集の取材先候補を決めました

- ・山部会メンバーの洲崎さんから活動団体の取材の楽しさや取材候補の選定のポイントについて説明を受けた後、川関係の活動団体として今年度の事例集における取材候補先を以下の9団体としました。

- ①矢作川漁業協同組合中和支部
- ②矢作川天然アユ調査会
- ③古帛水辺公園愛護会
- ④小渡セイゴ水辺愛護会
- ⑤矢作川沿岸水質保全対策協議会（故・内藤連三さんをよく知る人）
- ⑥森を再生する会
- ⑦環境ボランティアサークル亀の子隊
- ⑧愛知県土地改良区連合会構成団体の1つ
- ⑨NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

■その他：愛知県から海ごみ学習プログラムを紹介していただきました

- ・小学生の中学年以上を対象とした海の漂着ごみの現状把握とその抑制対策を学ぶことを目的とした学習プログラムの概要について説明がありました。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

- ・矢作川技術研究会の野田さんから色々と情報提供していただき、前回提示されたリストよりも団体数が増えている。(内田)
 - ▶ 平成17年に調べたことがあり、データ自体は古いものである。時間が経っているので、現状でどうなっているかは不明な団体もある。(野田)
- ・矢作川に流入しない河川をフィールドとする団体も含まれている。特に市街地から南の部分は矢作川と全くつながっていない場所である。このような団体についてどのように位置づけるか？(光岡)
 - ▶ 当初は対象が“流域”ではなく“流域圏”という考えであった。矢作川から農業用水を引いている受益地域も流域圏として対象とする認識でいる。(野田)
 - ▶ 地域として、明治用水の受水地域は流域圏に含めるという考えである。(内田)
- ・農水省(農地)関係の市民団体が多数存在する。直接川には関係のない部類の団体をどう位置づけるか。対象にするということであればリストアップすることもできる。(山本)
 - ▶ かつて、矢作川の濁水の被害影響を受けていたのが農業用地の関係である。このため、農地関係も流域圏として取り入れるという認識であり、リストの対象にしてもよいと考える。事例集の取材候補先とするか否かについては、活動内容をみて決めるとよい。(内田)
- ・山部会の事例集は、誰に聞くということを先に決めているか、聞く内容を先に決めているか？(鷺見)
 - ▶ 団体、人を先に決めている。地域外の団体も含まれており、例えば今年は天竜川流域の団体も対象としている。(洲崎)
- ・取材先を流域にこだわる必要はないと思う。取材内容、取材対象とする人が重要である。できれば、同じような活動をしている人を何人も聞く必要はなく、様々な分野を対象にするとよいと思う。聞くテーマをしぼって、誰にきくというのを決める方法もある。(鷺見)
- ・このリストは川というキーワードで整理されている。市民団体は農地や川、山など活動対象となる環境で行政の縦割りが強い。生物多様性というキーワードもいいのではないか。(山本)
- ・それは流域圏懇談会をつくったときの問題意識、意義であったと思う。行政の縦割りでは連携が難しい。我々から各行政担当部に連携を促すことが必要である。まずは団体をリストアップして、そのなかから連携できそうな団体、おもしろそうな団体を探すのも良い。(内田)
- ・取材は人と人のつながりができるのでぜひ参加してもらいたい。最近、取材した先では旭町のまきづくり研究会がよかった。非常に熱意をもって活動しているのが伝わってくる。(高橋)
- ・これまでの取材先で障害者の自立支援している団体と無農薬野菜を販売している団体がコラボして、活動を展開しているような事例もあり、取材者と取材先、取材先同士など有機的な新しい人のつながりができている。(洲崎)

●振り返り

よかったと思うこと：川関係の活動団体リストが改めて提示され、矢作川流域圏に行政及び関係行政機関の他にも、上流から下流にわたっていろいろな活動する多くの団体が知られた。

よくなかったと思うこと：市民団体関係の参加者が少なかった。

その他：二日前の海部会に参加して新しい情報が得られた。その他の項目の時間にでもトピックとしてよいので、部会のテーマ以外に話題として話ができればよいと思う。

今後の流域圏懇談会の予定



■第42回川部会WG

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成29年9月29日(金) 午後

内容：〈本川モデル〉矢作古川分派施設、矢作古川頭首工魚道の現地見学および意見交換



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 調査課 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

